

宮山古墳



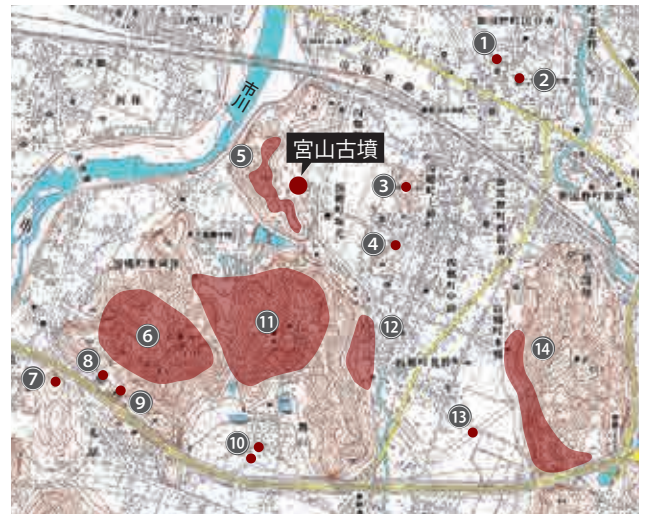
姫路市埋蔵文化財センター

Himeji City Archaeological Research Center

第2主体出土垂飾付耳飾

位置と環境

みやまこふん いちかわ
 宮山古墳は、市川下流東岸にある標高33mの尾根上に築かれた、直径約30mの古墳時代中期（5世紀）の円墳です。周辺には壇場山古墳や山之越古墳をはじめとして、前期から後期にかけての古墳が点在しています。調査は昭和44年と昭和47年の2回行われ、まいそうしせつ
 埋葬施設が3基確認されました。調査した順に第1から第3主体と呼称されていますが、実際に築かれた順は第3主体→第1主体→第2主体と考えられます。出土したふくそうひん
 した副葬品や埋葬施設の構造は朝鮮半島からの影響を色濃く感じさせるものです。古墳は昭和48年に兵庫県の史跡に指定され、出土品は平成10年に一括して国の重要文化財に指定されています。

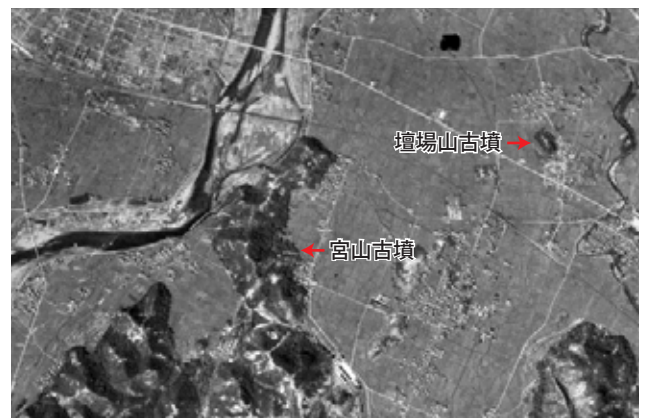


- ①壇場山古墳 ②山之越古墳 ③上鈴山古墳 ④中鈴山古墳 ⑤坂元山1~10号墳
- ⑥仁寿山古墳 ⑦梅ヶ枝墓地前古墳 ⑧兼田丸山古墳 ⑨打越山古墳 ⑩奥山大塚古墳
- ⑪阿保百穴群集墳 ⑫見野群集墳 ⑬見野長塚古墳 ⑭火山群集墳

位置図(S=1:50,000)



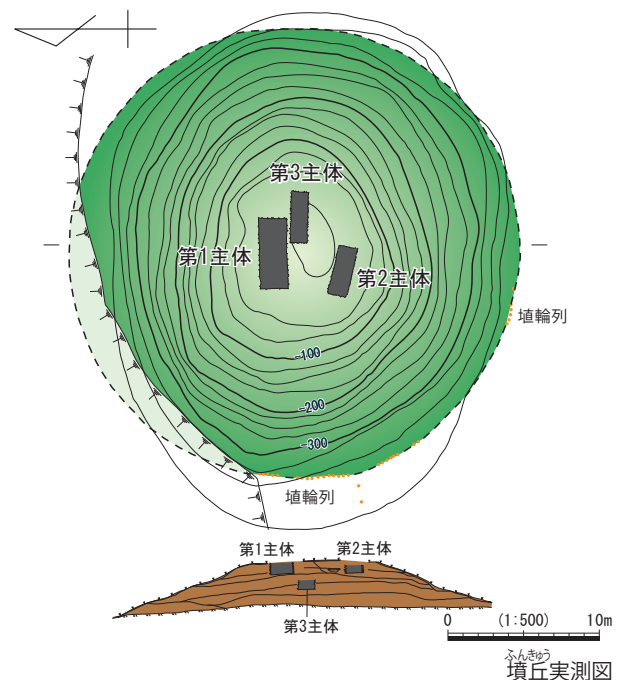
調査当時の宮山古墳



航空写真(昭和43年撮影)



はにわ
 壇輪の出土状況



第1主体 — 金銅装の武人 —

奈良県五条猫塚古墳出土
金銅装盾庇付青
(所蔵: 奈良国立博物館)



全長約4.6m、幅約1.8mの^{たてあなしせっかく}堅穴式石槨で、^{ぎょうかいがん}凝灰岩の^{こぐちづ}割石を丁寧に小口積みし、床面には割石と河原石を敷いていました。盗掘にあった石槨の保護がきっかけとなり、ここから^{みややま こふん}宮山古墳の調査が始まりました。大半の遺物が失われていますが、石槨の規模は他の2つの埋葬施設より一回り大きく、更に充実した内容の^{ふくそうひん}副葬品があった可能性が高いとされます。保存修理の過程で^{こんどうそう}金銅装の^{こざね}小札の存在が明らかとなり、被葬者は金銅装の武具を着用していた人物と考えられます。また、第1主体の埋土中からは^{たてがたはに わ}盾形埴輪の破片が出土しており、^{さいし}埴丘上で埴輪の祭祀が行われた可能性が考えられます。



こんどうそう こざね
金銅装小札

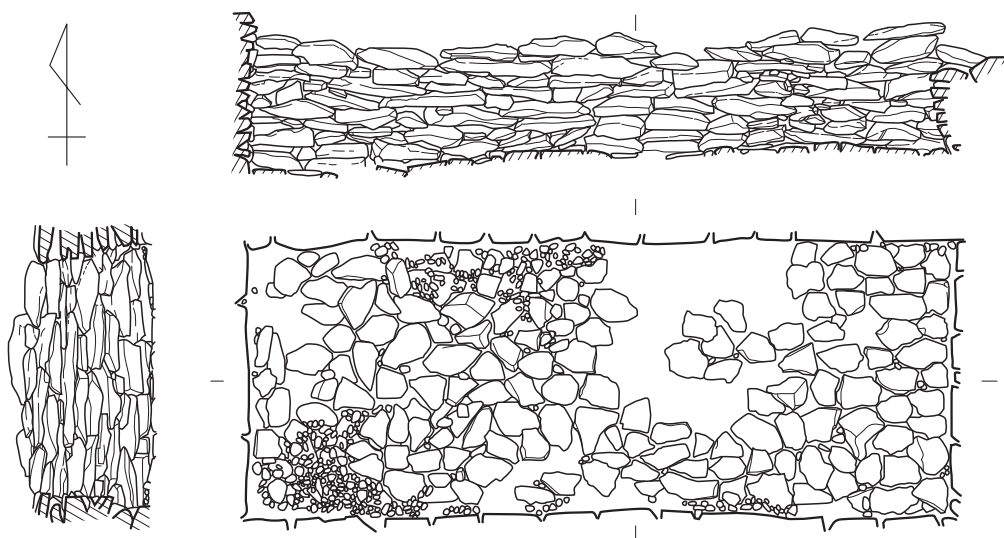
こんどうちゅうくう えんどうせいひん
金銅中空円筒製品



第1主体の石槨



めのう
瑪瑙勾玉・ガラス小玉



0 (1:50) 1m

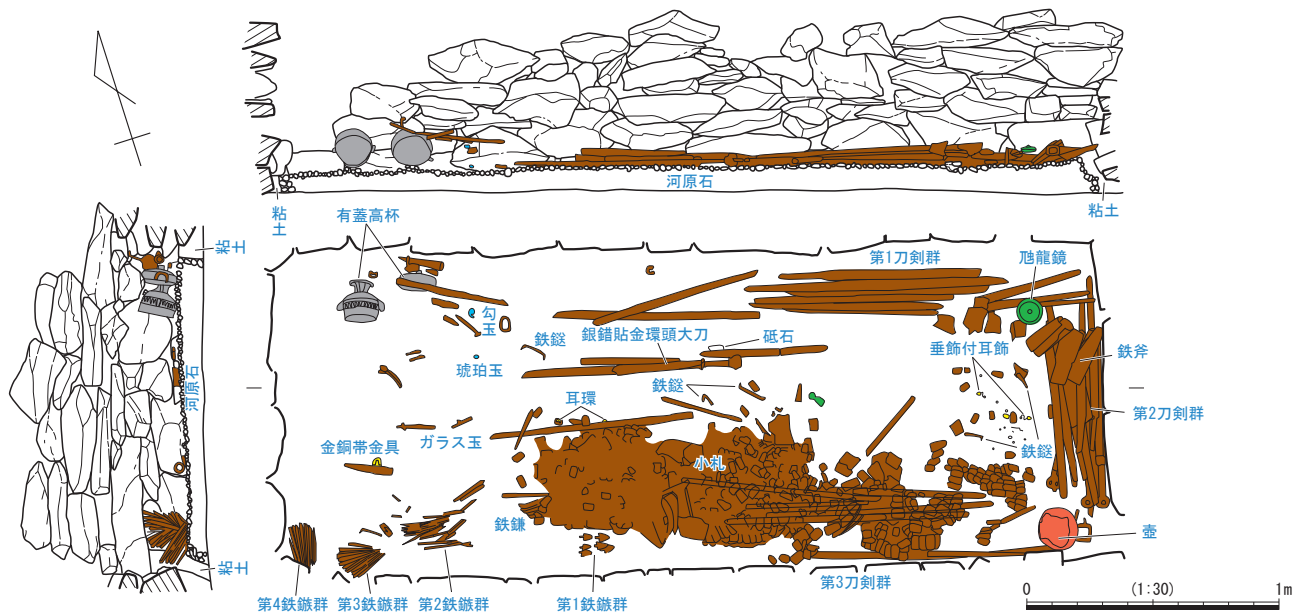
石槨実測図

第2主体 — 挂甲の武人 —

最後に築かれた埋葬施設です。第3主体の上部に第1主体とほぼ平行して構築されています。全長約3.2m、幅約1.2mの竪穴式石槨で、凝灰岩の割石を小口積みにし、床面には円礫が敷き詰められていました。鉄鎧の出土から木棺に葬られたことは明らかです。中近世に攪乱を受け、石槨の上部は失われ、内部も部分的に乱されていたため、棺内と棺外の区別がはっきりとはわかりませんが、概ね埋葬時の姿を残していました。副葬品は、虺龍鏡・垂飾付耳飾・玉類・銀錯貼金環頭大刀をはじめとする武器・武具・馬具・農工具・鉄素材とされる鉄鎧や土器など、多種多様なものが出土しています。保存修理において眉庇付冑の受鉢の存在が明らかとなり、甲冑が籠手なども含めてセットで副葬されていたことが判明しました。また、垂飾付耳飾と耳環が離れた位置で出土していることから、2体埋葬の可能性も指摘されています。



石槨内遺物出土状況



石槨実測図



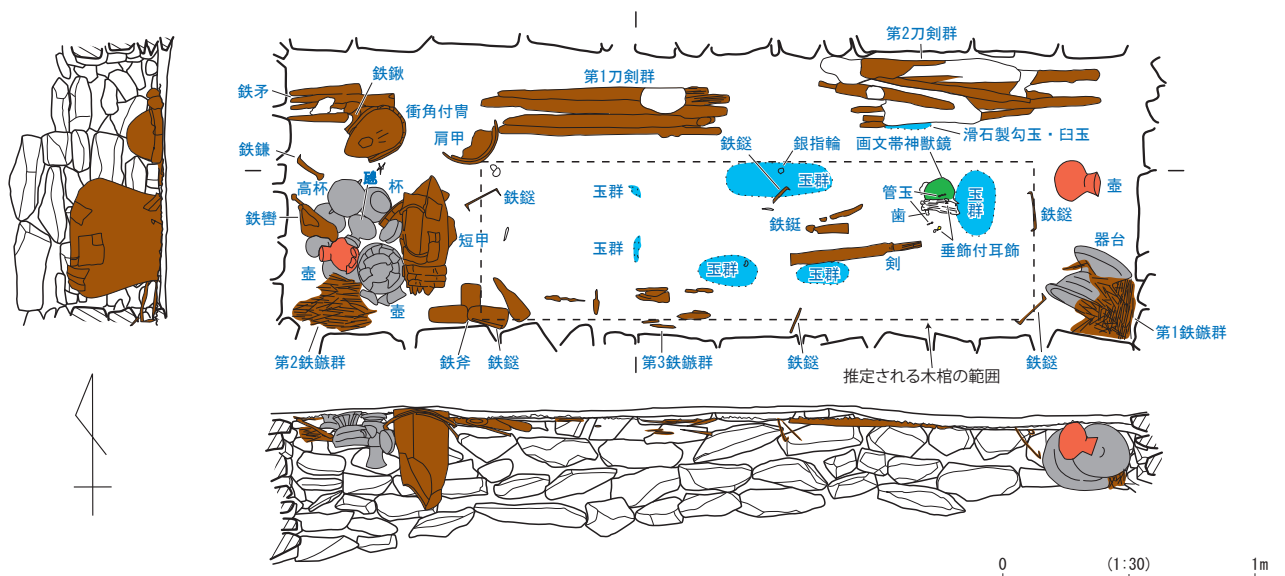
石槨内(合成写真)

第3主体 —短甲の武人—

墳丘のほぼ中央の深い位置に構築されていることから、宮山古墳は第3主体の被葬者のために造られたと考えられます。全長約3.4m、幅約1.1mの堅穴式石槨で、凝灰岩の割石と一部扁平な河原石を小口積みにし、床面には小礫が敷き詰められていました。石槨の上部は重機によって削られましたが、未盗掘であったと考えられ、埋葬時の状況をよく留めています。鉄鍔の出土状況から被葬者は木棺（約2.3×0.7m）に納められており、垂飾付耳飾、銀指輪や足結とされる玉を身につけたまま、画文帯神獸鏡とともに葬られたと考えられます。また、棺の外側には武器・武具・馬具・農具・鉄鋌・土器などが副葬されていました。副葬された土器の多くは須恵器と呼ばれる、朝鮮半島から伝わった当時最新の焼物でした。それまでの日本ではこうした土器を埋葬施設に納めることは少なく、朝鮮半島の埋葬法の影響を受けていると考えられます。



石槨内遺物出土状況



石槨実測図



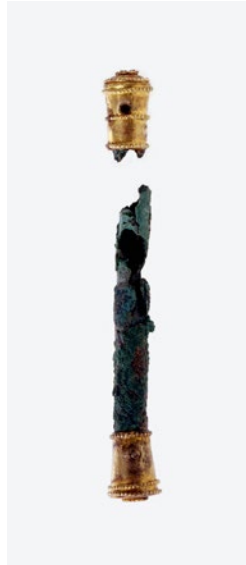
石槨内(合成写真)



すいよくきみかさり
垂飾付耳飾



ぎんゆびわ
銀指輪



こんどうつがたせいりん
金銅筒形製品



たんこう しょうかくつきかた
短甲・衝角付冑



すえき
須恵器



きんうつらだま
金空玉・ガラス小玉

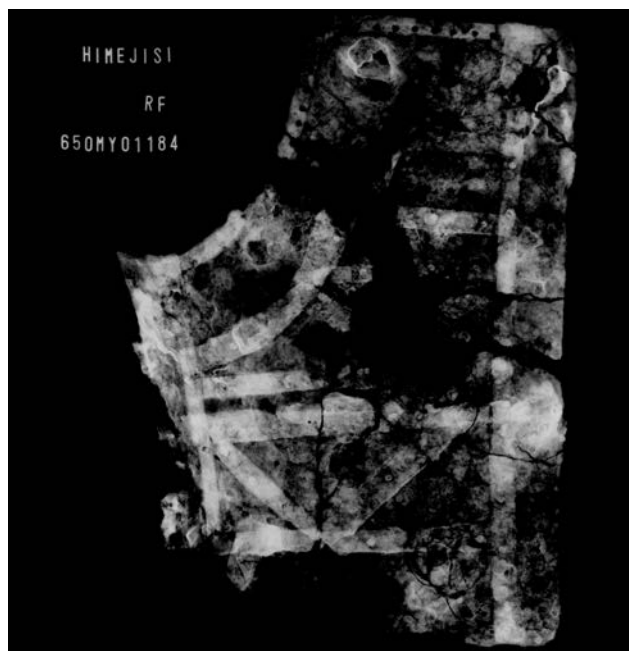


がもんたいしんじゆうきわ
画文帯神獸鏡

保存修理と未来への継承

調査直後から常に問題となっていた金属製品の劣化対策として、当時その一部について奈良国立文化財研究所で最初の保存修理を施しました。しかしながら遺物量も膨大であり、未処理の遺物も多く、本格的な保存対策が待たれていました。平成13年度から国・県の補助事業として採択され、元興寺文化財研究所において平成26年度まで修理を行ってきました。

保存修理は、X線撮影などによる状態確認から始まり、必要に応じて錆などの除去、薬剤による塩化物の除去、樹脂を用いた含浸強化、接合・復元、彩色を行い、保管台と保管箱の作成と進みます。修理の過程では、刀装具等に用いられた有機質の情報など新しい知見が得られています。



短甲のX線写真



含浸強化



接合と復元

昭和47年の調査直後から、出土品の安住の地と活用できる場が切望されてきました。こうした思いは平成17年の埋蔵文化財センターの開館として結実しました。宮山古墳出土品は特別収蔵庫において24時間温湿度を一定にした状態で保管されています。しかしながら保存修理は恒久的なものではなく、将来再び修理を必要とする時が来ます。その時まで資料の状態を常に観察し、定期的に公開を進めながら、次世代にこの財産を継承していくことが埋蔵文化財センターの重要な使命なのです。



保管状況

姫路市埋蔵文化財センター

Himeji City Archaeological Research Center

このパンフレットは、平成27年度国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」により作成したものです。

〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL (079)252-3950 / FAX (079)252-3952
発行日 2015年10月25日 2025年10月5日増刷
印刷 富士高速印刷株式会社